研究班番号【 38 】

時代背景から見るダジャレと掛詞の違い
～同じ言葉遊びなのに～

国語班：中西　悠稀、池田　優葉

要約

本研究の目的はダジャレと掛詞の違いの原因を明らかにすることであり、調査によって、それぞれが主に使われていた時代の状況は大きく異なるためであることがわかった。従って本研究では、和歌とダジャレの違いの原因はそれぞれの使用する目的の違いにあるということがわかった。

1．はじめに

学校の古文の授業で、作品中の和歌の解説を聞いていた際、

和歌の技法である掛詞は学校の授業でも扱うほど、学ぶべき、大切なものとされているように思った。しかし、同じ言葉遊びであるはずのダジャレは、辞書でも「つまらない洒落」と定義されるほどのものである。※3。これらは、現在は言葉遊びと定義されているものでもある。共に言葉遊びと定義されるにもかかわらずなぜこのような「扱いの差」が生じているのだろうか。

私達はこの違いに着目し、なぜダジャレと和歌にこのような違いが生じたかについて研究する。

2．研究方法

私達はダジャレと和歌の違いは、盛っていた時代が大きく異なるところにあると考えた。まず、私たちは当時の優秀な和歌が集められたとされる小倉百人一首の和歌の傾向ついて調べた。そして、それらが貴族などの身分の高い人によるものが多く、平安時代に作られたものが多いことから、平安時代の貴族の和歌。また、和歌がどのように作成されているかの過程や、和歌を作った人物の背景などについての文献を調査する。その他に当時の貴族の生活や和歌、ダジャレの成り立ちについて言及している書物を調査することで情報を集める。さらに和歌もダジャレも相手に発言したり贈ることで初めて相手に存在を認知されるものなのでここでは誰を対象に作られ、贈られたのか。という面についても注目し、集めた情報からダジャレと和歌の特徴を比較し、この2つの違いが生じた原因を究明していく。

3．結果

・和歌への評価は、その人そのものの評価と一致する。

よって、素晴らしい和歌を詠めば、自身の出世に繋がることが多い。

「後日譚では勝者の兼盛はこの歌合で出世の道が開けたが、敗れた忠見はあまりのショックから、ついに『食わずの病（摂食障害）』となって悶死したという。」※1

・複数人がそれぞれ和歌を詠み、その優劣を決める歌合がある。

「なんとか最終盤までこぎつけたものの、左方の一一勝三敗五引き分けで右方の劣勢は揺るがず、二十番目壬生忠見と平清盛が最後の対決となった。この二人は卯花と夏草の歌合でも顔を合わせ、一勝一敗と星を分けていた。（中略）

ともに秀歌であったため、判者の藤原実頼を大いに悩ませたのであった。引き分けとするのが妥当であろうが、主催者村上天皇から優劣をつけるようにと指示があり、補佐役の源高明にも助言を求めたが、ただただ平伏しているだけであった。

」※1

・和歌は恋文の役割を果たすこともあり、当時（平安）では文化では告白する側が告白される側に和歌を贈り、その和歌の技工や情緒に告白される側が感化されることで、告白が成就するという例が見られた。（百人一首の内の数種類より）

・当時の貴族は極めて早くから（午前三時ごろ）起床し、占いや日記、仕事の支度をし、出勤する。終業は

午前11時頃でおよそ4時間程度の勤務を行う。勤務の内容としては国政に関わる書類　の決済や議定であったが、なによりも重要なものは儀式であったとされている。午後4時の夕食の　時間までは自由な時間とされておりその間に休息をとったり、遊びに興じたとされている。これら　の内容から貴族の生活は現代人よりも早くから一日が始まるが勤務時間に関しては短いと言える※2　※4

・当時の平安貴族の収入は、与えられた土地からの収入や農民からの税収、その他にも自由に使え　る使用人などが位や官職に応じて与えられていた。また、これらに加えて私有地である荘園からの　収入もあった。この収入は現在の金額に換算すると最も位の低い貴族でも1500万円程度あるとされ　ており現代人の平均的な収入より遥かに良い待遇であった。※9

・ダジャレには和歌のように直接出世に繋がった例は見られなかった。だが、その独特なユーモア　の持つ力によって場を和ませる効果があるのではないかと考えられている。、雑談と違い笑いを引き　出す事ができ、会席や商談を和ませる。といった場の雰囲気を良い方向に大きく変える例はいくつ　か見　られ、コミニュケーション手段の一つとして活用されている。

4. 考察

和歌には、出世の道や恋の成就に繋がったという事例があり、ダジャレではそういったことがあ　まり無いことから、和歌とダジャレでは目的や、それらを作る人が何をどれだけ重要視しているか　が大きく異なると考えた。また、当時の貴族と現代の人々の2つの対象において勤務時間や給料の　違いの結果から、当時の貴族は現代人と比べて心と時間に余裕があったと予想できる。平安時代に　は、出世や恋などといった人生において重要な目的だけでなく、それらの　目的を果たすために相応　な和歌を作り上げるための現代人と比べて短いといえる勤務時間などといった時間、高位な身分に　属するために食糧や居住地の心配をすることがないといった心の余裕などの要素が揃っていた。な　ので、現代でも受け継がれるような素晴らしい和歌の技法をつくりだせたのではないかと考える。

5. まとめ

和歌とダジャレ、それぞれを作る際に考える時間や労力は大きく異なる。一般的に、時間がかけ　られていない、簡単なものより、試行錯誤された精巧なものの方がより価値があるとされている　ダジャレは場の雰囲気を良い方向に変える事ができるコミニュケーション手段として使われてい　る。しかし、現代において私達はダジャレになにか重要な思いを込めることはあまり多くなく、大　抵は軽い気持ちから作成したり、発言したりするものだろう。しかし、和歌においてはその限りで　はなく、「3結果」の欄でも平兼盛やその他の例にも見られたようにその出来具合によっては告白が　成功したり仕事の出世などの重要な目的が関わっている。このように和歌とダジャレの間には大き　な違いがある。現代での掛詞とダジャレの扱いに、違いが生じていると考えた。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

※1　2017　鳥居本幸代「千年の都 平安京のくらし」
※2　2020　平安貴族　嫉妬と寵愛の作法
※3　2019　岩波国語辞典　第8版
※4源氏物語【48】貴族ののほほん生活https://www.shikibunosato.com/f/monogatari48
※5 筑波大学　比較文化学類　ホーム　学生のページ>リレーエッセイ　no.22「くだらなくたって、面白い」久我拓也http://www.hibun.tsukuba.ac.jp/sp/page/page000429.html
※6 鎌倉時代の勉強をしよう(小学生の質問)10 http://www.tamagawa.ac.jp/SISETU/kyouken/kamakura/el10.html
※7　2016　川堀泰史　明日使える仕事術　笑談力　～思わず微笑むダジャレ108選～
※8　2001　掛詞の比較文学的考察
※9　ファンレス共同データベース https://crd.ndl.go.jp/reference/modules/d3ndlcrdentry/index.php?page=ref_view&id=1000164705